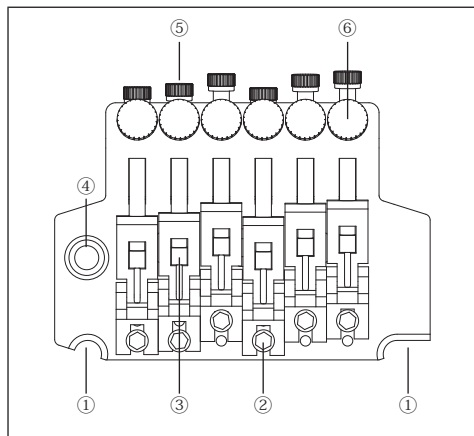


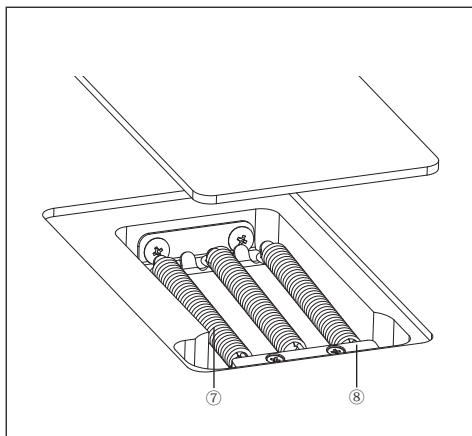
FAT/SAT/STDトレモロ

■ 正面



- ① ナイフエッジ
- ② サドル・ロック・ボルト
- ③ スtring・ホルダー・ブロック
- ④ アームソケット

■ 背面



- ⑤ スtring・ストッパー・ボルト
- ⑥ ファイン・チューニング・ボルト
- ⑦ トレモロ・スプリング
- ⑧ スプリング・ロック

トレモロアームの取り付け

- ① トレモロアームはトルク調整キャップ一体型の挿し込み式です。
ベースプレートのアームソケットにトレモロアームを差し込みます。
- ② トルク調整キャップを締め、トレモロアームを固定します。
トルク調整キャップを締め込むほど、トレモロアームの締め付けが増します。

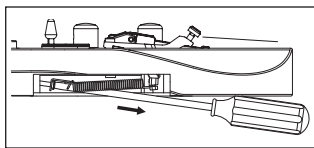
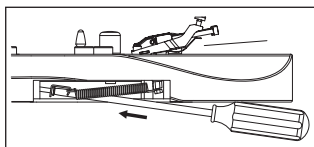
トレモロの取り付け角度調整

トレモロの取り付け角度は、弦の張力とギターのボディ裏側に装着されたトレモロ・スプリングの張力とのバランスで調整します。トレモロがギターのボディ表面とおおよそ平行になるように調整することで、最も優れた性能を発揮します。

- ① 正しくチューニングした状態で、トレモロの傾きを確認します。
- ② トレモロが前方へ傾いている場合は、ボディ裏側のトレモロ・スプリング・カバーのスリットからプラスドライバーを挿し込み、スクリューを締め込んでトレモロ・スプリングの張力を強くします。
- ③ トレモロが後方へ傾いている場合は、スクリューを緩め、トレモロ・スプリングの張力を弱めます。

※ トレモロの角度調整は、トレモロ・スプリングの張力を調整するたびに弦とスプリングとの張力バランスが変化するため、チューニングに影響を及ぼします。

チューニングを繰り返しながら調整してください。



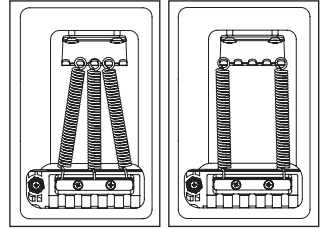
JP

トレモロ・スプリング

工場出荷時は、3本のトレモロ・スプリングが並行に取り付けられた状態でセットアップされています。

弦のゲージを変更したり、ダウンチューニングで使用するなど弦とトレモロ・スプリングとの張力バランスが大きく変化する場合には、トレモロ・スプリングの数や取り付け方の変更が必要になる場合があります。

- ① 張力を強めたい場合は、外側の2本のトレモロ・スプリングを斜めに取り付けます。
- ② 張力を弱めたい場合は、中央のトレモロ・スプリングを取り外します。

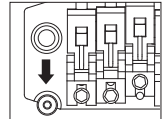


注意

- トレモロ・スプリングの着脱は弦を十分に緩めてから行ってください。また、全てのスプリングを外すとトレモロがギターから外れますのでご注意ください。
- 再度トレモロを取り付ける際は、トレモロのナイフエッジをスタッドボルトの溝に確実に挿し込んだ状態でトレモロ・スプリングを取り付けてください。

弦高調整

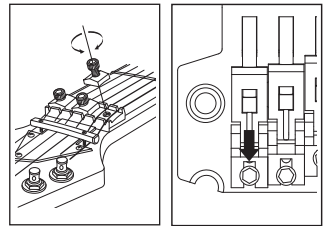
トレモロ本体左右のスタッドボルトを六角レンチ (3mm) で回して、トレモロ全体の高さを動かして弦高を調整します (各弦ごとの調整は行えません)。



イントネーション調整

- ① ロッキング・ナットのプレッシャー・パッド・ボルトを六角レンチ (3mm) で緩め、十分に弦を緩めます。
- ② サドル・ロック・ボルトを六角レンチ (2mm) で緩め、サドル位置を調整します。

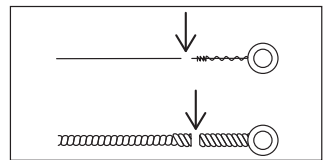
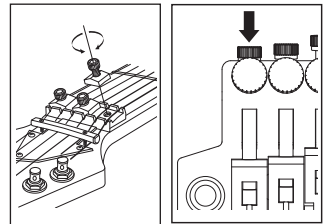
※ イントネーションの確認は、サドル・ロック・ボルトがしっかりと締まった状態で、正しいチューニングで行ってください。調整が終わりましたら、サドル・ロック・ボルトとロッキング・ナットのプレッシャー・パッド・ボルトを締めてください。



弦交換

- ① ロッキング・ナットのプレッシャー・パッド・ボルトを六角レンチ (3mm) で緩め、糸巻きから弦を取り外します。
- ② トレモロ本体のストリング・ストッパー・ボルトを六角レンチ (3mm) で緩め、サドルから弦を引き抜いて取り外します。
- ③ 新しい弦は先端のボールエンド部分をニッパー等で切り落とします。
- ④ ボールエンドを切り落とした側の弦の先端をサドルとストリング・ホルダー・ブロックとの間に挿入し、ストリング・ストッパー・ボルトを締めて弦を固定します。
- ⑤ 糸巻きで弦を巻き上げ、チューニングを行います。
- ⑥ チューニング完了後、ロッキング・ナットのプレッシャー・パッド・ボルトを締めます。

※ 全ての弦を一度に取り外すとトレモロの取り付け角度が大きく変化するため、弦交換は1本ずつ行うことをお勧めします。全ての弦を一度に取り外す場合にはトレモロの取り付け角度が大きく変化しないよう、トレモロ下部にクロス等を挟んで固定するとチューニングが比較的容易に行えます。



注意

- チューニングを行う前に、ストリング・ストッパー・ボルトがしっかりと締め付けられていることを確認してください。

ファイン・チューニング

ロッキング・ナットで弦をロックした後も、ファイン・チューナーによって各弦のチューニングの微調整が行えます。チューニングの前に、あらかじめ全てのファイン・チューニング・ボルトを可動範囲の中央付近に調整しておく、弦をロックした後の調整幅を広く持たせることができます。

